

広がるAIDS文化フォーラム

2021年度 報告書



LIVING TOGETHER

AIDS 文化フォーラム in 陸前高田

2021

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を断念しました。

AIDS 文化フォーラム in 佐賀

6/26 土

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を断念しました。

Rikuzentakata

Yokohama

Kyoto

Nagoya

Saga

AIDS 文化フォーラム in 横浜

8/6 金 → 8 日

AIDS 文化フォーラム in 京都

10/10 日

AIDS 文化フォーラム in 名古屋

9月

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を断念しました。

AIDS 文化フォーラム 広域連携会議

2022 1/29 土

広がるAIDS文化フォーラム2021報告書

目次

AIDS文化フォーラムとは	P1
広がるAIDS文化フォーラム	P2
AIDS文化フォーラムin横浜	P3-4
AIDS文化フォーラムin京都	P5-6

AIDS文化フォーラムとは

◆AIDS文化フォーラムのはじまり

1994年「第10回エイズ国際会議」がフォーラム開催の始まりでした。アジアで初めての国際エイズ会議は、大きな注目を集めました。行政や学会中心の国際会議は参加費が8万円で、とても市民参加できるものではありませんでした。この時、国際会議に並行して草の根の市民版エイズフォーラムをやろうと、多くのボランティア・NGO・専門家たちが、手弁当でAIDS文化フォーラムを立ち上げたのです。そこでは国際会議に集まるリソースパーソンを講演者にしたり、NPOのネットワークを作ったり、HIV陽性者によるパフォーマンスがあったり様々な試みが行われました。行政からの直接的援助は受けられませんでした。会場の提供など後方支援の協力は得られました。それが逆に市民ボランティアによる自立的な成長にもなり、行政と市民の協働による活動のモデルケースにもなっています。

◆“文化”の2文字

なぜAIDS“文化”フォーラムなのか。それはフォーラムを医療や福祉の問題だけではなく、HIV感染者やAIDS患者を病気と共に生きる人間としてとらえること、そしてすべての人間が、HIV/AIDSに関わりを持ちながら、日常生活・社会的活動に関わっているという側面を大切にしたいという考え方で「文化」の2文字を使ったのです。「文化」の2文字を入れたことで、フォーラムの開催プログラムの幅は大きく広がることができました。



広がるAIDS文化フォーラム2021報告書

発行日 2022年3月

発行者 AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会

編集 AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

イラスト もたいひでのり

連絡先 AIDS文化フォーラム in 横浜事務局

〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 横浜YMCA内

Tel 045-662-3721 E-mail abf@yokohamaymca.org

URL <https://abf-yokohama.org/>

この報告書は公益財団法人エイズ予防財団「令和3年度エイズ予防財団助成事業」の助成を受けて作成しています。

広がるつながるAIDS文化フォーラム

「HIVの感染経路を問わず、HIV/AIDSのみならず社会を取り巻く状況を多様に文化の視点で考えていく」ことを特徴として、各地域で地域の特徴を生かしたAIDS文化フォーラムを開催してきました。

1994年に横浜で始まったAIDS文化フォーラムの活動は、2011年度の京都初開催へつながったことを皮切りに、全国へ広がりました。

2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、佐賀、名古屋、陸前高田の3会場での開催は断念するかたちとなりましたが、横浜、京都では、オンラインを駆使し、AIDS文化フォーラムを開催することができました。フォーラムではそれぞれの地域とオンラインでつながることで、コロナ禍においてフォーラムが大切にしている想いを確認しました。

また、AIDS文化フォーラムin京都の開催にあたっては、横浜のオンラインチームの協力により、オンライン配信のノウハウを提供し、5地域のみならずHIV/AIDSに関連する社会の課題に関心を持つ全国の参加者に、HIV/AIDSについて考える機会を提供することができました。



AIDS文化フォーラム広域連携会議

◆AIDS文化フォーラム広域連携会議

2022年1月29日、5つの地域の運営委員15名が横浜会場およびオンラインで集いました。今年はコロナ禍2年目となり、フォーラム開催が困難な地域もありましたが、横浜・京都での開催時には各地域からのオンライン参加があり、つながりを再確認する機会となりました。

コロナ禍における各地域でのHIV/AIDSに関する状況を報告しあい、それぞれの立場から感じている社会の課題や取り組むべきことについて話し合いました。

HIV/AIDSをテーマに様々な分野で活動している人たちが集まり、つながり、交流する場としてのAIDS文化フォーラムの意義を再確認することができました。



AIDS文化フォーラムin横浜

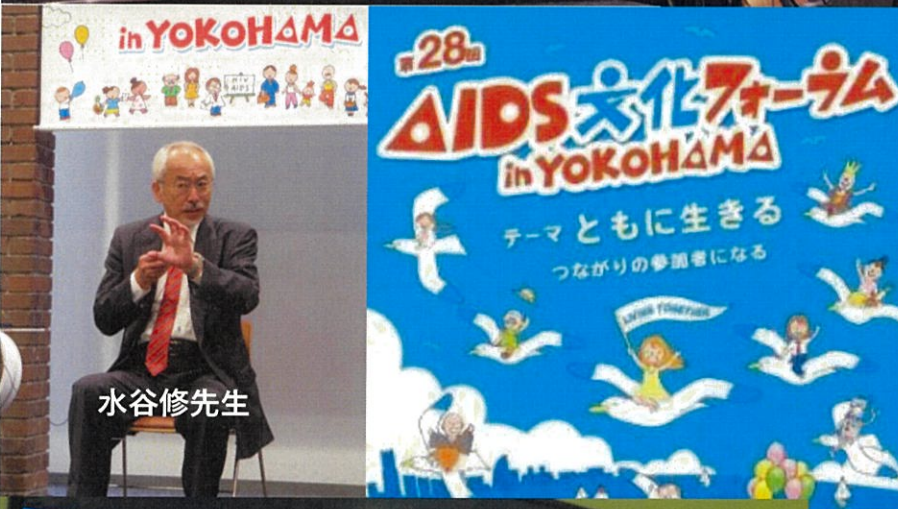
<https://abf-yokohama.org>

フォーラム名	第28回AIDS文化フォーラムin横浜
テーマ	ともに生きる つながりの参加者になる
日程	2021年8月6日（金）～8日（日）
会場	オンライン配信
主催	AIDS文化フォーラムin横浜組織委員会
共催	神奈川県
運営	AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会 （事務局：横浜YMCA）
ボランティア	イベントボランティア 6人(オンライン) 運営委員 23人
参加人数	延べ3,039人
プログラム数	オンライン分科会 24プログラム、オンライン活動報告 5団体
プログラム内容	<p>◆開会式・オープニング「話してリアルになったこと」 オープニングでは、川田龍平さん(参議院議員・薬害エイズ原告)、下村健一さん(情報スタビライザー)、矢永由里子さん(臨床心理士)、岩室紳也さん(フォーラム運営委員)が、「情報による社会の分断～当事者・支援者・伝える人・受け取る人～」をテーマに、「ともに生きる」ための情報が正しく伝わらず、コロナ禍での不安が広がる中、私たちが情報にどのように向き合うかについて意見が交わされた。</p> <p>◆主催プログラム ・「つながりの参加者になるために～違法とされる薬物を使った人たちの社会参加を阻むものは～」では、精神科医、薬物依存当事者、薬物使用経験者ら5人が登壇し、トークセッションを行った。当事者の声に耳を傾け、否定せずに受け止めることによりつながりや居場所を作っていくことの大切さを学んだ。 ・「宗教とAIDS Part16 つながる手段としての宗教」と題し、それぞれの宗教の視点から、コロナ禍においてリアルでつながることの難しさや、一方でオンラインでのつながりで分断が生じてしまうことへの懸念についても語られた。</p> <p>◆分科会（参加団体発表） ・下村健一さんによる「情報に踊らされないために」では、社会における「情報の歪み」に触れ、模擬授業を通じてメディアリテラシーについて学んだ。また、情報の真偽を見極める目を養うことの必要性について語られた。</p> <p>◆オンライン活動報告 団体紹介、啓発手法の紹介など、オリジナル動画がフォーラム開催期間限定で公開され、約300回の視聴・アクセスがあった。</p> <p>◆広域連携事業「広がるAIDS文化フォーラム」</p>
2021年の特徴・成果	HIV/AIDSも新型コロナも同じ感染症でありながら、残念ながらHIV/AIDSの教訓が十分に生かされているとは言えないことが明らかになった。しかし、薬害エイズを含め、偏見や差別に直面した当事者の声を届け続けることの重要性が確認された。また、オンライン開催ではあったか、登壇者のリアルな声を届けるため、登壇者は可能な範囲で配信会場に集合したが、HIV/AIDSで感染症対策を熟知したメンバーによる徹底的な感染予防策により、安心してプログラムを遂行することが可能であった。
2022年度予定	2022年8月5日（金）～7日（日） かながわ県民センター

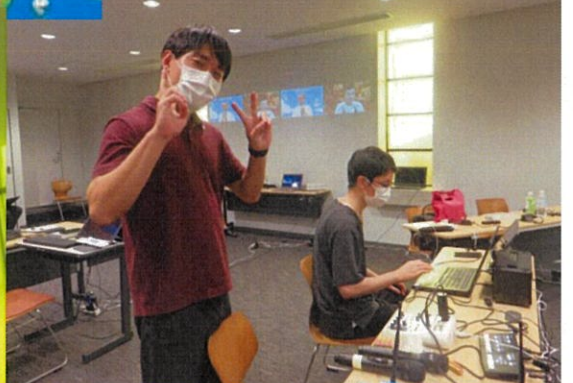
YOKOHAMA PHOTO LIBRARY



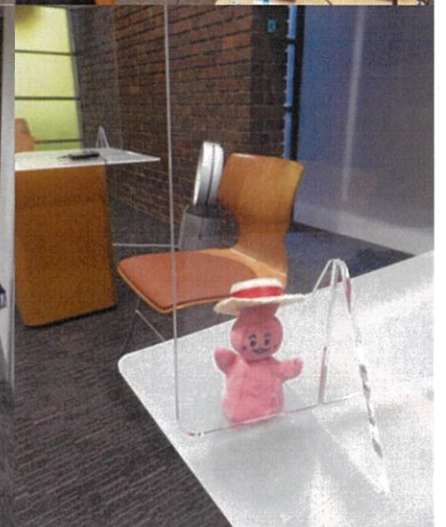
アクリル板の他に背後から送風



水谷修先生



プロ並みの配信環境



AIDS文化フォーラムin京都

<http://hiv-kyoto.com>

フォーラム名	第11回AIDS文化フォーラムin京都
テーマ	「つなぐ」「つながる」今、できること レッドリボン大作戦
日程	2021年10月10日（日）
会場	龍谷大学深草キャンパス顕真館
主催	AIDS文化フォーラムin京都運営委員会
共催	京都府、京都市
運営	AIDS文化フォーラムin京都運営委員会
ボランティア	10人
視聴人数	850人
プログラム数	発表：全体会第一部・第二部
プログラム内容	<p>◆開会式 テーマソング演奏 江藤天音さん 開会のあいさつ 大野聖子事務局長および各地のAIDS文化フォーラムからの応援メッセージ</p> <p>◆全体会第一部「新型コロナウイルス流行後を見据えたHIVとの関わり方」 宇野健司さん 南奈良総合医療センター感染症内科 部長 澤田暁宏さん 兵庫医科大学 呼吸器・血液内科 助教 白野倫徳さん 大阪市立総合医療センター感染症内科 副部長 森田真子さん 国立病院機構大阪医療センター臨床心理室</p> <p>HIVをきっかけに作られた行政・NGOの地域連携モデルがコロナ対策に役立っていることを確認し、AIDS文化フォーラムで語り合ったことがコロナ対応にも活かされていたことを実感することができた。</p> <p>◆全体会第二部 さらに語り合います！ 岩室紳也さん ヘルスプロモーション推進センター 高田 昇さん おだ内科クリニック 白井千香さん 枚方市保健所 中村美紀さん 法円坂メディカル 中川拓也さん 京都府健康対策課 今崎匡裕さん 京都市医療衛生企画課 高折晃史さん 京都大学大学院医学研究科 血液・腫瘍内科学 大野聖子さん 京都第一赤十字病院</p> <p>◆広域連携事業「広がるAIDS文化フォーラム」 横浜、陸前高田、佐賀、名古屋のAIDS文化フォーラムのメンバーのみならず、HIV/AIDSに様々な角度からかかわってくださっている方々にオンラインでメッセージをいただき、広がりを紹介しました。</p>
2021年の特徴・成果	<p>龍谷大学深草キャンパスの協力による素晴らしい講堂、オンライン配信設備と京都の事務局の配信技術を最大限に活かすべく、横浜からも配信応援メンバーが機材を持参して応援に駆け付けました。</p> <p>できる人が、できることを、できる時にできるようにすることで、様々な困難を乗り越え、充実した配信ができることが実感できた空間、時間でした。</p>
2022年度予定	2022年10月初旬 京都市内

KYOTO PHOTO LIBRARY



全国からの応援





広がるAIDS文化フォーラム

2022年の予定



★ AIDS 文化フォーラム in 佐賀 2022 **6** 月 (予定)

★ AIDS 文化フォーラム in 横浜 2022 **8/5** (金) - **7** (日)

★ AIDS 文化フォーラム in 名古屋 2022 **9** 月 (予定)

★ AIDS 文化フォーラム in 京都 2022 **10/8** (土) - **9** (日)

★ AIDS 文化フォーラム in 陸前高田 2023 **1** 月 (予定)